

# はじめに

日頃より市民の皆様をはじめ関係者の方々には、豊田市矢作川研究所の調査研究及び運営に対し、多大なるご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。今年も当研究所の研究成果や河川に関わる研究者の方々から投稿頂いた研究論文を取りまとめた「矢作川研究 No. 27」を発刊することができました。ご一読頂き、多くの皆様に活用して頂くとともにご意見等頂ければ幸いです。

2022年の矢作川では、全国的に報道された明治用水頭首工の大規模な漏水という未曾有の事態が発生しました。頭首工からの農業用水や工業用水の取水が困難な状況となりましたが、東海農政局を主体に多くの関係者の努力と支援により応急的に水量の供給が再開されました。本格的な対策工事により一刻も早い安全な通水を願うばかりです。矢作川流域は農業や製造業を始めとする工業が盛んな地域で河川の水の利用率は全国的にみても非常に高く、改めて矢作川の恩恵を流域住民が考えさせられることとなりました。

昨年も全国各地で台風や集中豪雨等で河川の氾濫や土砂崩れによる甚大な被害が発生しました。近年の激甚化する豪雨等はいつ、どこにでも起こりえる可能性があります。こうした災害に備えて、河川管理者が行う治水対策に加え、流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる治水対策として「流域治水」の取り組みが進められており、矢作川流域においても、「流域治水プロジェクト」により今後様々な事業が進む予定です。事業には、自然環境が有する多様な機能を活用するグリーンインフラの取り組みを反映し、治水と環境の両立を図ることとしています。当研究所は、これまでの研究成果を生かし、この取り組みに積極的に関わってまいります。

矢作川研究所は、引き続き矢作川流域を始めとする市内河川のより良い環境の創造を目指して調査研究を進めてまいります。今後とも皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年1月

豊田市矢作川研究所 所長  
宮田昌和